

皆様、イースターおめでとうございます。

【今日の説教から】

子羊の血を塗った家に死が過ぎ越す出来事を見ました。そして荒れ野に行く民に天からマナが降りました。

イエス様は最後の晩餐で、パンを取って「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである」と語られ、ぶどう酒を取って「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である」と語られました。

またイエス様はこうも語られました。「わたしは命のパンである。あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。…わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。」ヨハネ6章

イエス様はそのお体をも血潮をも、ご自分の命を明け渡され、十字架に死なれましたが復活されました。

アンパンマンが自分の顔を人に食べさせて力無き者となりながらも、新しい顔を得て元気百倍に新たに立ち上がるように、イエス様は復活なさいました。私たちはそんなイエス様と共に生きているのです。

ちょうど今、NHKの朝ドラでは「アンパンマン」の作者のやなせたかしさん夫妻のことが取り上げられています。やなせたかしさんはご自分がクリスチャンであるとは公言しておられませんが、この「生きてるパンをつくろう」という曲の歌詞を見ておきますと、戦争中を食うや食わずで過ごしたやなせたかしさんが、正義なんてわからない、正しい戦争なんてありえない、しかし食べ物を得て生きていく、これだけは必要かつ正しいことであり正義だと言われたと聞いたことを思い出します。

「生きてるパンをつくろう」 作詞 やなせたかし

おいしいパンをつくろう 生きてるパンをつくろう

赤ちゃんは はだかで 生まれてくる どじょうも はだかで かえるも はだか
しかし たべずには 生きられない ひもじいことは がまんできない
どんな ちいさな虫だって たべずにいれば死んでしまう

おいしいパンをつくろう　生きてるパンをつくろう
いのちがけでつくろう　いのちのパンを

ゴリラは毛だらけで　パンツもしない　きんぎょは　はだかで　みみずも　はだか
しかし　へいちゃらで　生きてるよ　ひもじいことは　がまんできない
どんなえらい人だって　たべずにいれば死んでしまう　死んでしまう　死んでしまう」

でも食べるためにパンが必要だという歌の意味より深いものがこの歌詞にはあるように思うのは私だけでしょうか。

おいしいパンをつくろう　生きてるパンをつくろう
いのちがけでつくろう　いのちのパンを
たべずにいれば死んでしまう　死んでしまう　死んでしまう

生きてるパンって何でしょうか。いのちのパンって、人を生物として生かすという意味だけのものでしょうか。「いのちがけでつくろう　いのちのパンを」って、どういう意味でしょうか。これはアンパンマンの創り主、ジャムおじさんがアシスタントのバタ子さんと歌う歌です。

これら御言葉が思い出されます。

マタイ 4:4 イエスは答えて言われた、「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」。

ヨハネ 6:26 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。

6:27 朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである」。

6:28 そこで、彼らはイエスに言った、「神のわざを行うために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか」。

6:29 イエスは彼らに答えて言われた、「神がつかわされた者を信じることが、神のわざである」。

6:30 彼らはイエスに言った、「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか。どんなことをして下さいますか。」

6:31 わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。

6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。

6:33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。

6:34 彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい」。

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

「アンパンマンのマーチ」 作詞 やなせたかし にありますように、

「なんのために生まれて なにをして 生きるのか

こたえられないなんて そんなのは いやだ！」

「そうだ おそれないで みんなのために 愛と勇気だけが ともだちさ

ああ アンパンマン やさしい君は いけ！ みんなの夢 まもるため」

自分の顔を差し出して、人を元気にするアンパンマン。力が弱くなると、ジャムおじさんが新しい顔を焼いて、アンパンマンは復活します。そしてまた悪と戦い、人助けをします。

ガラテヤ 5:6 キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。

イエス様は私たち人類の罪の身代わりとして十字架につき、贖いを成し遂げてくださり、私たちのために代価を支払い、私たちを罪と死から自由にしてくださいました。そのイエス様が死から復活されたのがこのイースターです。

24:1 週の初めの日、夜明け前に、女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。

24:2 ところが、石が墓からころがしてあるので、

24:3 中にはいってみると、主イエスのからだが見当らなかった。

24:4 そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

素晴らしい復活の朝、勝利の朝です。しかしそこには女性たちの困惑がありました。

女性たちはイエス様のなきがらに香油を塗るために、つまりイエス様の死せる亡骸を見つけ、それに出会うために墓に行きました。しかし彼女らは、それを見つけることはできませんでした。その目的は果たされませんでした。

私たちもまた、自分の頭に思い描いたシナリオに基づいて生きているのではないでしょう。思ったとおりに事が進めば順調だと思い、それに反すればうまくいっていないと思うのです。しかしイースターは、それら私たちの、人間の思いを上回る、神様の復活の、新しいシナリオ、新しいストーリーの始まる朝から出発する日の出来事なのです。

ですから、私たちは私たちの期待を外れる「ところが」という出来事を恐れませんが、私たちの人生には、「ところが」という出来事が多く起こります。それは私たちの想定を裏切るものです。私たちを不安にさせ、私たちの期待を裏切り、私たちを困惑させ、途方に暮れさせ、悲しみと絶望へと私たちを導きます。しかしそれは悲観的なことではないのです。

24:4 そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

24:5 女たちは驚き恐れて、顔を地に伏せていると、このふたりの者が言った、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。」

24:6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出しなさい。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。」

これは直訳すれば、「なぜあなた方は生きている方を死人の中に…探しているのか、求めているのか、試みているのか、求めているのか、要求しているのか、期待しているのか、考えているのか…」という意味になります。

あなた方はそこにイエス様が死んで遺体が安置されているのを求め、願って期待しているのはなぜか…。遺体のお世話をしに行く女性たちにすれば、それは当たり前といえば当たり前だったと思います。イエス様はもうすでに死なれ、遺体はそこに安置されたのですから、どうしてそういう状況以外のことを望み求めるのでしょうか。しかし、事は彼女たちの思いをはるかに超えた喜ばしいところに成就していました。

私たちはどうでしょうか。私たちもまた、神様を、生きているお方を死人の中に探し、そこにいることを求め、願い、期待するなどという事はないのでしょうか。どうして？イエス様は

復活なさり、死に勝利して今は天の父の右に座しておられるのだからそんなことを思うはずはない。本当にそうでしょうか。

ルターが宗教改革の動きに行き詰って塞ぎこんでいた時、妻カテリーナが部屋に喪服をきて部屋にやってきます。ルターは「誰か天に召されたのか」と聞きます。すると彼女は「あなたの主イエス・キリストが死んでいます」と言いました。ルターはハッとさせられ、それから宗教改革をより強く推進していくことになったという話です。カテリーナは、ルターにとってかけがえのない存在でした。 「神様のクレヨン」 ホームページより引用

私たちは自分のことを意識しすぎて、自分の考えに捕らわれがちです。自分の分析、予測、判断、それらがすべてで、正しいといつも考えがちです。人の意見もアドバイスも、自分の考えを補強するために用いるのであって、自分の意に合わないものは採用しません。

24:9 墓から帰って、これらいっさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。

24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

24:11 ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。

弟子たちもまた、女性たちの証言を、神様が女性たちになさったこと、語られたことを愚かな話、ナンセンス、たわごと、むなしい、空っぽの。根拠のない虚言のように受け止めたのです。

こういう私たち人間の、神様のなさること、語られる事への感度の不良は目も当てられません。アンテナが明後日のほうに向いていて、せっかくのテレビの放送も、ラジオの放送も、神様の語り掛けのメッセージも捉えることが出来ないのです。これが私たち人間の大きな問題です。

神様のお力は、私たちの思いと想像をはるかに超えたところにあります。死人が死者の中にはおらず、生ける者の中にいる。これがイエス様の復活です。

私たちは神様のたいなる働きを愚かな話、たわごとと決めつけてしまうのです。そのように御言葉をも非現実的なことと時に決めつけてしまうのです。そして悲観的な思いにふけり、途方に暮れるのです。それでいいのでしょうか。

「なんのために生まれて なにをして 生きるのか
こたえられないなんて そんなのは いやだ！」
「そうだ おそれないで みんなのために 愛と勇気だけが ともだちさ
ああ アンパンマン やさしい君は いけ！ みんなの夢 まもるため」

ローマ 1:16 わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。

ヘブル 11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。
11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。む

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。
24:6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出しなさい。

御言葉を思い出しなさい。御言葉を思い出しなさい。これが私たちの生きる道です。

「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。【主】のいぶきがその上に吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに、民は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ」(イザヤ 40:6~8)

1 ペテロ 1:23 あなたがたが新たに生れたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によったのである。
1:24 「人はみな草のごとく、その栄華はみな草の花に似ている。草は枯れ、花は散る。
1:25 しかし、主の言葉は、とこしえに残る」。これが、あなたがたに宣べ伝えられた御言葉である。

私たちは私たちの悟りではなくて、考えではなくて、思いや願いではなくて、神様の言葉によって生かされる、神様の救いと御業の中にあって行かされるという事を確信するこのイースターの朝なのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

私たちはついつい自分の考えに捕らわれて、自分が絶対で、自分の考えが絶対で、見たり聞いたりするほんの少しの情報ですべてを決めつけてかかり、すぐに不安になったり絶望してしまいます。しかしイエス様は身を捧げ、命を捧げて私たちを救い、そして死から復活なさいました。私たちが想像もできない素晴らしい方法で、私たちの絶体絶命のいのちが復活と永遠の命につながれているという素晴らしい、良き知らせをありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン